

目指す学校像	「保護者、地域から信頼される学校」 ・明るい挨拶と笑顔が溢れる学校 ・落ち着いた雰囲気の中で生徒が成長を実感できる学校 ・共に切磋琢磨しあう学校
重点目標	1 ICTを活用した学びの改革 2 危機管理、整理、整頓、整備が行き届き、安全・安心な学校 3 コミュニティー・スクールを推進し保護者、地域から信頼される学校づくり 4 小・中で連携した教員の指導力の向上

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は高く、分からないことについて自主的に教員に質問するなど学習意欲が高い。 <課題> ○数学はよく分かるが好きではない生徒も多い。 ○発表場面では失敗を恐れて消極的になってしまう生徒もいる。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善  ・主体的に学ぶ生徒の育成	①国語、数学について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し生徒が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。  ①STEAMS TIMEで、数学・理科を核とし、STEAMS、SDGs を関連付けた、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施する。 ②教員と生徒が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指す STEAMS TIME を展開する。	①国語、数学、G・S、社会、理科について、全生徒に対して学期に2回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。  ①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、肯定的に回答する教員の割合が80%以上となったか。 ②STEAMS TIME 実施後の生徒アンケートにおいて、「数学や理科に対する関心が 高まった」と回答する生徒の割合が80%以上となったか。					
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を大幅に上回っている。 ○様々な要因から教室へ入れなかったり、登校時刻に登校ができない生徒がいる。 <課題> ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援し教室に元気に通えるようにすることが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実  ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた指導の充実	①教育相談部会、生徒指導部会を毎週1回開催し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②学習室、教育相談室、さわやか相談室など教室以外で学習できる体制を整え適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。  ①校内けがMAP、地域安全MAPを作成し校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、生徒と結果を共有できるようにする。 ②心肺蘇生法やAEDの取扱いについて保健委員会を中心に勉強会を行い、休日の部活動などで大人が少ない場面でも対応できるようにする。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②教室に入れない生徒が、教室に入れるようになったか。  ①生徒アンケートに「安全を考えて行動している」と回答する生徒の割合が90%以上となったか。 ②心肺蘇生法やAEDの取扱いについてアンケート調査を実施し肯定的な回答をする生徒の割合が90%以上となったか。					
3	<現状> ○昨年度、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す生徒の姿について熟議を行い、自ら課題を見出し、協働して解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事で保護者の参観の制限を行った。 <課題> ○学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。 ○学校の教育活動や生徒の様子などを実際に参観していただく機会を増やしていくことが求められている。	・目指す生徒の姿を地域全体で共有する  ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①学校運営協議会の実施状況をHPに掲載を行い、関心を高めていく。  ①学校行事等について、学校に関わる人々が参観できるようにし、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。 ②新型コロナウイルス感染症の感染予防に留意しながら公開する機会を増やしていく。	①学校自己評価に係る地域・保護者アンケートで、肯定的に回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る生徒のアンケートで、肯定的に回答する割合が80%以上となったか。  ①学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの取組により、生徒に自尊意識が育っている。」等、生徒の自律について肯定的な回答をする割合が高まっていったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、肯定的な回答割合が80%以上となったか。					
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○ホワイトボードシートや遮光カーテン、電源の確保など。整備された機器を日常的に活用する体制が整ってきた。 <課題> ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。	・絶えず学び続ける教職員研修の実施	①管理職による授業参観を毎学期実施すると共に、ICTを活用した授業を全ての教科で実施する。 ②エヴァンジェリストを中心にICT活用に係る研修会を毎学期実施し、ICTを活用した授業改善に取り組む。 ③小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開期間を設け実施する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。					